



第 1 7 1 号



カルガモ親子  
(松田橋付近)  
4班 西木 豊 撮影

発行日 令和4年7月10日  
発行元 大山崎ふるさとガイドの会(OFG)  
発行責任者 森脇 剛  
連絡先 大山崎町歴史資料館内  
TEL 075 (952) 6288, FAX 075 (952) 6289  
URL <https://www.kyoto-ofg.org/>

\*\*\*\*\*

**ふるさと案内人養成講座 開講！**

**養成講座実行委員長 矢内 章太**



馬場信行教育長のご挨拶

第10回ふるさと案内人養成講座は、令和3年度の開講を目指して令和2年度に「ふるさと案内人養成講座準備委員会」を設置し、令和3年度に「ふるさと案内人養成講座実行委員会」に移行して講座内容・実施時期等について検討を重ねてきましたが、コロナ禍により開講を延期せざるを得ませんでした。

でした。

また、養成講座実施に伴う費用についても地域力再生プロジェクト交付金(現行は地域交響プロジェクト交付金)を活用していましたが、OFGが活用していた地域交響プロジェクト交付金の基盤強化プログラムは令和3年度で終了になるため、生涯学習課の援助を得て大山崎町に予算を申請して、資金の確保を図ることができました。

会員の高齢化、会員数の減少が顕著になってきたため、コロナの感染状況を考慮しながら令和4年度には養成講座を開講しないとOFGの存続が危惧されるとの危機感をもって、前委員長の池田さんを中心に「準備委員会」「実行委員会」で検討してきた内容で、関連する部門と調整しながら開講の準備を進めてきました。

社会状況も感染対策を実施しながら経済活動を進める方向で動き出したため、5月に開講することで受講者募集の広報活動を開始しました。

今回の養成講座はコロナ禍での開講なので、感染予防対策を徹底しての運営が必要なため会員の聴講については、従前の自由聴講から人員を絞っての聴講で講座会場の設営・撤去をお願いするとともに受講者・聴講者には手の消毒、検温、マスク着用の徹底、入口・窓の開放により換気対策を徹底して5月19日(木)に開講しました。



教育委員会 古閑 正浩  
リーダーによる講義

受講者は現会員5名を含めて29名の申込みがありましたが、2名が事情により辞退されたので27名で開講、皆さん熱心に受講され質疑も活発に交わされたので今後の講座が楽しみです。年令的には定年延長・雇用延長等の関係もあり70才前後の人が多くを占めているので、山には登れないという人もいますが、できるだけ多くの人にOFGへ入会して活動してもらいたいと思います。

講座は12月まで毎月(8月を除く)第3木曜日に実施するので、会員の聴講者・実行委員の方には積極的に受講者に話しかけ、講座終了後も1月から6月にかけて追加講習会を実施してガイド活動にスムーズに入れるよう準備していることも話して、入会するよう勧誘をお願いします。

また、今後も受講希望者があれば中途からでも受講してもらえますので、引き続き受講者の勧誘もよろしくをお願いします。

5月～6月の活動実績		活動予定	
1. 主なガイド		1. 主なガイド	なし
・5月20日(金) 島本町立第四小学校6年生	104名	2. 行事予定	
・5月29日(日)まで 定点ガイド	784名	・7月21日(木) ふるさと案内人養成講座 3回目講義	
・5月25日(水) 天王山シニア倶楽部 出前ガイド	20名	○アサヒビール大山崎山荘美術館	
・6月4日(土) 天下分け目の天王山ウォーキング	64名	・9月16日(金)まで施設改修のため休館	
・6月17日(金) 大阪府高齢者大学校 4コース	31名		
2. 会の行事など			
・5月19日(木) 第10回ふるさと案内人養成講座 開講			
・5月23日(月) あちこち学習山歩59(天王山陶板画)	15名		
・6月16日(木) ふるさと案内人養成講座 2回目講義			
・6月27日(月) あちこち学習山歩60(小泉川から光明寺へ)			

5-6月 ガイド実績

	一般ガイド		歴史資料館		旗立松(定点)		山荘庭園(定点)		合計	
5-6月	6件	139人	65件	117人	181件	582人	98件	202人	351件	1,060人
4年度累計	7件	147人	95件	171人	229件	787人	117件	236人	449件	1,361人

## 天下分け目の天王山ウォーキング

令和4年6月4日(土)快晴の下、3年ぶりの天王山ウォーキングを開催し、無事終了することが出来ました。ガイド担当を代表して会員の皆様方にお礼を申し上げますと共に、報告をさせていただきます。

令和元年12月、中国武漢で新型コロナウイルス発生のニュース、私にとっては全くの他人事でしたが瞬く間に世界中に感染は拡がり社会を混乱に陥れました。OFGは月々の班会議もガイド活動も出来ない日々が続きましたが、今年の春頃から感染が落ち着き始め、ガイド担当3人で天王山ウォーキングの準備に取り掛かりました。しかしコロナの影響は大きくビール工場の試飲停止、JR広報誌の縮小、更にコースの変更、OFG会員の減少が重なり従来とは形の違うイベントとなりました。

運営面では初めてのメール応募受付を経験、ガイド担当3人が毎日チェックを繰り返しました。その結果いろいろなものが見えて来ました。申込者は阪急沿線在住の方が多く京都市内から神戸市内まで広がり、もう一つは圧倒的に女性の多いこと。ウーマンパワーを見せつけられました。



大山崎山荘、離宮八幡宮等への挨拶も済ませ、下見現地学習会・全体会議も終わり、後は天気心配ですが、当日は晴天いよいよイベント開始です。コース変更に伴う混乱も無く参加の皆様方が

笑顔でふるさとセンターを出発されるのを見て顔がほころびました。

さて今回初めての試みとして登山コース1グループ2名の同行ガイドとしました。新しい会員の方には先輩のガイド方法を学んで頂き、また高齢者の参加も増えていることから緊急時の対応を考慮しました。午後からは西山天王山駅で参加者の到着を待ちました。全員の方が笑顔で帰って来られ、またまた顔がほころんだ次第です。会員の皆様方には今回の貴重な経験を班会議等で報告して頂き、次回に活かして参りたいと思います。ありがとうございました。

(3班 加藤良一ガイド担当幹事)

## ～わたし こんなん しています～

### 体力の衰えに負けないために！

1月から4月は体力づくり！というのは疑問符？実は長岡京市に住んでいた義理の兄が、2年前の夏突然亡くなってしまい、それまで管理していた竹藪が残されました。相続した姪はとても管理できないと言います。義兄が作業している時に私も時々手伝っていたので、今度は私が元気なうちは整理してあげるよと言ってしまったのだが、やり始めるとほとんど手探りの状態で大変！器具をそろえたり、雑草を刈ったり、肥料を撒いたり、11月ぐらからは藁の準備をし、1月下旬から3月半ばまで、ほぼ毎日のように藁敷きから土盛りに、妻と一緒に通い通し。4月になると2～3日おきに筍掘りに。ええ運動になりましたわ！それでも終わりではありません。5月6月にかけてはその後に伸びてくる余計な竹を伸びないうちに伐採し、また親竹として残す竹は十分伸びた所で日当たりを良くするため頭2～3メートルを落とします。これがまた大変なんです。でもこれが、今のところ私の健康の秘訣となっているかも。

(1班 鈴木 工 記)

### 続けたいこと

年を重ねるにつれ、周囲の環境や自分の体調などによってそれまで長く続けてきたことができなくなってきたり、あきらめてしまうことが多くなります。そうした中で数少なく長続きしているものの一つがテニスです。数十年のテニス経験といえばさぞかし腕前のほうもと思われそうですがそういうことはありません。今年の初め腰痛が悪化し2か月ほどテニスが全くできない日が続いたときは、いよいよ年をとったものだと思いがふさぎ、ようやくペースを落としながらも再開できた時は目の前が明るくなったような気さえました。テニスを通じた交友関係も何ものにもかえがたいものです。3年前には、一緒にテニスを始めた友人をラケット片手にサンパウロに訪ね、数十年ぶりのラリーにしばし時の経過を忘れ、彼の日系人テニス仲間との試合を楽しみました。そのときの3年後の再試合の約束は過ぎようとしていますが、体調を整えその日に備えておきたいと思っています。

(2班 吉岡 望 記)

## あちこち学習山歩 57 勝龍寺城周辺

4月18日(月)長岡京駅東口に集合。長岡京市ボランティアガイドの中村好夫さんのご案内です。東口周辺は関ヶ原の戦い後の1633年に、譜代大名 永井直清が建てた神足館跡とのことです。(当時、勝龍寺城が洪水に遭っていた為に建てられなかった。)本丸を中心に武家屋敷、足軽屋敷が配置されていました。

その後、直清は、摂津高槻に移る。神足神社の東側にある土塁と空堀の跡を見て“横矢掛け”を知りました。これは内から側面や背後から攻撃出来る仕掛けです。

元龜2年(1571)に細川藤孝が信長の命により城を大改修し、本丸を中心に石垣造りの虎口や櫓他、石垣には城を守る意味での五輪塔や他の信仰物が使用され、特に瓦・石垣・天守等は時代に先駆けた技術を残している事に驚きました。説明を聞きながら、細川家にお嫁入りした光秀の娘お玉さん(ガラシャ)が宮津城に移る迄の2年間過ごした事、その後の運命に思いを馳せながら、コース最後の恵解山古墳で解散後、各々お弁当を楽しみました。

ガイドの中村さん、村田さんありがとうございました。

(4班 山本八重子 記)

## あちこち学習山歩 59 天王山陶板画

5月23日、天王山「秀吉の道」陶板画コースをゆっくり行こうと、史跡瓦窯跡公園を出発しました。

竹林の小径の途中、竹藪の急坂を上って神照院(じんしょういん)の大きな五輪塔と十三重石塔を拝観しました。五輪塔は下から地(四角)、水(丸)、火(三角)、風(半月)、空(宝珠)から成り、密教思想の宇宙の五大要素を形象化しているとのことです。

6枚の陶板画のうち、1枚目、2枚目、5枚目、6枚目を森脇会長に説明していただきました。旗立松では、3枚目と4枚目を森さんに説明していただき、テンポ良い語り口に全員聞き入ってしまいました。

山頂でいったん解散し有志で昼食をとり、恒例の山頂カフェで飲物やお菓子をいただきながらワイワイガヤガヤとおしゃべりを楽しみました。

帰路では、加藤良一さんによる講談調ともいえる喋りで十七烈士墓の説明があり、その他いろんな話をしながら無事に史跡瓦窯跡公園に到着しました。

あまり聞くことのないガイド仲間の説明を聞き、その語りや知識を参考に自分の能力を向上させようと思った一日でした。ありがとうございました。

(1班 三宅秀輝 記)